

岡谷理事長（手前）から表彰状を受け取る渡部を、アシミ共同代表。奥前列左から神垣代表、小倉代表



公益財団法人ヒロシマ平和創造基金（理事長・岡谷義則、中国新聞社長）の国際交流奨励賞表彰式が3日、広島市中区の中国新聞ビルであった。国境を超えて地道に平和貢献に取り組んでいる広島市内の3団体に表彰状と奨励金（10万円）が贈られた。

被爆樹木の種や苗を国内外に届けているグリーン・レガシー・ヒロシマ・インシアティブ（中区）のナスリーン・アシミ共同代表（54）は「世界中の人と力を合わせて平和な世界を築け

平和貢献の志たてる

国際交流奨励賞 3団体を表彰

るよう願っている」と日本語であいさつ。渡部「共たい」と喜んでた。

同代表(60)は国連訓練調査研究所(ユニタール)との連携に「国連の機関と市民が一緒に活動できているのがうれしい」と述べた。ヒロシマ通訳者グループ

サラーム(パレスチナの女性を支援する会) 西区は「30周年の記念事業に使用したい」。今夏を目標に本の出版を計画する。

作の刺しゅう製品をフェアトレードで販売したり、現地の様子をブログや会報誌で伝えたりしている。神垣今回は応募のあった7団体3人から、理事と有識者計5人の選考委員会で受賞者を選んだ。(二井理江)

4 March 2014, Chugoku Shimbun
Green Legacy Hiroshima Initiative was
awarded with International Exchange
Encouragement Prize.